

「鉄道車両製造事業の再編」に関する 申6号 説明申し入れ交渉 5回目①

31. 事業移管後の新車製造図面及び配線工作図の取扱いを明らかにすること

- ・ 図面は、今まで自由に総合車両センターとやりとりをしていた。今後は、責任を持った対応をするため、窓口は営業を設ける。その窓口を通す以外は今までと変わらない。
- ・ 図面管理システムは、法人格が違うため、J-TRECには繋がらないことになる。

33. 新車導入時における初期故障対応などについて考え方を明らかにすること。

- ・ 製造箇所で責任を持つことは変わらない。新津の品質管理箇所が責任を持って対応する。
- ・ この場合も J-TREC との窓口になる、営業に連絡することとなる。迅速に対応するために初動は J-TREC 横浜事業所、東京にいる E-TEC が対応することもある。

36. 業務移管後の資材調達及び部品製造に関する考え方を明らかにすること。

- ・ 新津と横浜でメリットがあれば一括調達を行う。地場を活用した方がメリットのある場合は、地場にて調達を行う。
- ・ 新津の資材課設置は検討中であり、横浜で一括調達する場合でも新津に残ることになる。

32. JR新津車両製作所と総合車両センター間での連携で速やかに車両の改修・改善をおこなってきたことに対する評価を明らかにすること。また、事業移管後の体制について明らかにすること。

- ・ 今まで新津と総合車両センターにて良い連携をとってきた。今後は、横浜事業所との連携をいれてより良いものにしていく。
- ・ 技術開発等は今まで通り実施していくが、横浜と新津は役割分担をしていく。
- ・ JR 向け車両を製造する新津の役割は変わらないため、モックアップは新津で実施する。

34. 総合車両センター等で行っているメンテナンス業務の将来展望を明らかにすること

《sustina によりメンテナンスは変わるのか?》

- ・ sustina はあくまでもブランドである。総合車両センターのメンテナンスの方法は変わらない。

《メンテナンスをパッケージとして売り出した場合の総合車両センターへの影響》

- ・ E-TEC にて責任を持って対応していく。総合車両センターへの影響はない。

35. 現在使用されている車両の寿命を明らかにするとともに、車両寿命に基づく車両製造計画を明らかにすること。

《車両の寿命の考え方》

- ・ ステンレス車両の車体は 30 年～50 年耐久性があるが、電子部品は 15 年で交換が必要。通常は 1 度の交換で 30 年くらいが寿命と考えているが、場合によっては 2 度目の交換をし、45 年ということもあり得る。

《車両製造計画について》

- ・ 現在、当社は 11,000 両を保有。寿命が 30 年の場合、単純計算で年間 200 両～300 両を取替えていくイメージとなる。これらは新津にて製造していくことを想定している。